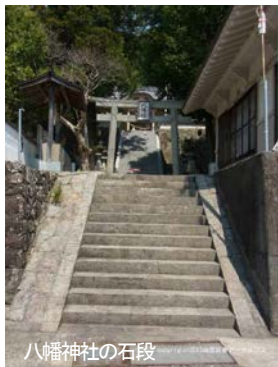


## 石段が伝える

神社やお寺の石段が過去の津波の潮位を伝える指標になっていることがあります。石段に石碑が設置されていることもありますし、先人の記録から推察できることもあります。徳島県美波町と高知県須崎市の例をご紹介します。

### ■八幡神社と延命寺の石段（徳島県美波町）

安政元年（1854）の地震・津波により、木岐浦（現美波町）では総戸数 203 戸のうち流失 190 戸、大破・小破 6 戸の被害を受け、無難な家は 7 戸にすぎませんでした。木岐元日堂記録によると、11 月 4 日朝 5 ツ時（午前 8 時頃）に大地震があり、人々は大汐が来ることを用心して家物を持って山や寺など土地の高い所に避難して夜を明かしました。翌 5 日朝から空は晴れ風もないので、人々が持ち出したものを持ち帰ったところ、夕 7 ツ時（午後 4 時頃）大地震が起こり、煉塀が崩れ、家土蔵が大いに破損しました。間もなく津波が打入り、その高さは家土蔵よりはるかに高く 3 丈（9m）余になりました。津波は八幡神社の上の石段下より 3 つ目まで達し、延命寺の石段ではおよそ 8 歩通り浸かりました。〈海部郡誌刊行会編「海部郡誌」1927 年、由岐町史編纂委員会編「由岐町史下巻」1994 年〉



### ■神明宮と江雲寺の石段（高知県須崎市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時過ぎ、南海大地震が起こりました。須崎市野見の震災復旧記念碑には、地震終息から津波来襲までの 15 分間に人々が貴重品を携えて裏山に避難したこと、津波が大小 6 回来襲し引潮の時に家屋の倒壊・流失などの被害が発生したことが記されています。野見の被害は死者 2 人、家屋の流失 59 戸、全壊 29 戸、半壊 99 戸、浸水 31 戸に及び、船舶・漁具・家財道具の流失破損も夥しい数となりました。最高潮位は 4.5m ほどに達し、神明宮石段の下から 19 段目と江雲寺石段の下から 15 段目に最高潮之跡の碑が設置されています。〈須崎史談会「須崎史談第 25 号」1976 年、須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年、大家順助編「須崎消防の歩み第 2 巻」1985 年）、野見の震災復旧記念碑〉

